

授業科目名	精神保健看護援助論		担当教員	◎田中 美恵子、中島 洋一、 松丸 直美、松谷 典洋、高梨 美穂	科目ナンバリング
必修	開講年次：2年後期	単位：2単位	授業形態：演習60時間		NS264

【授業概要】

精神保健看護学概論に基づいて、このコースは、精神看護の展開に必要な看護の方法論について学ぶ。看護師は、ケアの人間関係や人としての尊厳を尊重し、対象者とのコミュニケーションの技法(関係性のアセスメント、寄り添うこと、傾聴、話をすること、コンフロンテーション、プロセスレコーディング、グループワーク)について学ぶ。

【達成目標】

1. 精神看護の目的・機能、精神看護に特徴的な倫理について理解する。
2. セルフケア看護理論に基づいて看護を展開できる能力を養う。
3. 精神状態のアセスメントの技法を身につける。
4. 対人関係の展開をプロセスレコードを使って内省する能力を養う。
5. 精神科の基本的な治療方法と看護の役割について理解する。
6. 精神科リハビリテーションの概念、地域包括ケア、家族ケア、訪問看護等について理解する。
7. セルフヘルプグループやリカバリーの概念について理解する。
8. 代表的な精神疾患患者への看護援助方法について理解する。
9. 入院治療の特徴と安全管理について理解できる。
10. リエゾン精神看護の概念、技法について理解する。
11. 統合失調症患者、気分障害患者への看護計画を立案できる。
12. 当事者の視点について理解する。

【履修条件】

「精神保健看護学概論」を修得していること。

【授業計画】

[01] 精神看護の目的・機能、および精神看護倫理	(田中)
[02] 精神障害者へのセルフケア看護	(田中)
[03] セルフケア行動変容の演習 課題をもとに演習形式で進める	(中島・松丸・松谷)
[04] 対人関係とコミュニケーション1-患者-看護師関係の形成とプロセスレコード	(中島)
[05] 対人関係とコミュニケーション2-プロセスレコードの演習 グループワークにて進める	(中島・松丸・松谷)
[06] 対人関係とコミュニケーション3-プロセスレコードの演習 グループワークにて進める	(中島・松丸・松谷)
[07] 精神状態のアセスメント	(田中)
[08] 薬物療法と看護	(中島)
[09] 精神療法・集団療法と看護	(田中)
[10] SST・心理教育・認知行動療法	(中島)
[11] 家族への援助	(松丸)
[12] 精神科リハビリテーションと多職種連携、地域包括ケア	(松丸)
[13] 精神障害者への訪問看護	(田中)
[14] セルフヘルプグループとリカバリー	(松丸)
[15] 統合失調症(急性期)患者への看護	(中島)
[16] 統合失調症患者(慢性期)への看護	(松丸)
[17] 双極性障害患者・抑うつ障害患者への看護	(松丸)
[18] パーソナリティ障害患者への看護	(中島)
[19] 摂食障害患者、物質関連障害患者への看護	(中島)
[20] 不安障害・強迫性障害・心的外傷およびストレス因関連障害患者への看護	(松谷)
[21] 発達障害患者・患児への看護	(松丸)
[22] 精神科における身体合併症患者への看護と精神科ターミナル	(松谷)
[23] 精神科入院治療の目的と看護援助	(高梨)
[24] 安全管理とリスクマネジメント	(中島)
[25] リエゾン精神看護1-定義・目的、身体疾患患者の抑うつ・不安・せん妄へのケア	(松谷)
[26] リエゾン精神看護2-コンサルテーションと看護師のメンタルヘルス支援	(松谷)
[27] 看護計画立案の演習1(統合失調症急性期患者) グループワークにて進める	(田中・中島・松丸・松谷)
[28] 看護計画立案の演習2(統合失調症慢性期患者) グループワークにて進める	(田中・中島・松丸・松谷)
[29] 看護計画立案の演習3(気分障害患者) グループワークにて進める	(田中・中島・松丸・松谷)
[30] 当事者の視点	(田中・中島・松丸・松谷)

【教科書】

田中美恵子編著(2015)：精神看護学-学生-患者のストーリーで綴る実習展開、第2版、医歯薬出版、

【参考書】

1. 田中美恵子編著(2010)：精神障害者の退院計画と地域支援、医歯薬出版
2. 田中美恵子・濱田由紀編著(2017)：ナーシングポケットマニュアル精神看護学、第2版、医歯薬出版
3. 野嶋佐由美監修・粕田孝行著(2000)：セルフケア看護アプローチ、第2版、日経研
4. 野末聖香編(2011)：リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版

【評価方法・評価基準】

期末試験(50%)、小テスト・リフレクティブレポート(30%)、提出物(20%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：概論で学んだ各精神疾患の病態像・症状・治療・経過を復習しておくこと。(1時間程度)
事後学習：臨地実習に備えて、授業内容で不明であったことを調べ、復習すること。(1時間程度)

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ、質の高いケアを実践するためのリーダーシップ能力、Ⅲ、根拠に基づいた看護実践能力、Ⅴ、多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

リフレクティブレポート、及び小テストについて授業時にフィードバックを行う。

【備考】

この科目は、特に精神保健看護学臨地実習と深いつながりをもつので、さらに深い学習のために、この科目をきちんと学んでおくことが重要である。